

ペテロの手紙 第一3章

励ましと教えが2章続いたあと、ペテロは結婚について語り始めます。なぜでしょう。それは、困難なとき、結婚生活も試されるからです。試練や困難は、夫婦の絆を深める場合もありますが、ばらばらにする原因にもなります。ペテロは、このことを知っていたペテロは、未婚・既婚にかかわらず誰もが学ぶべき教えと励ましを与えています。

1ペテロ 3:1 同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。たとい、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものとされるようになるためです。

服従するというのは、私たちの性質に反することです。人は自分の思い通りに物事をしたいものです。しかし、神はここで、権威のあり方をはっきりとさせておられます。興味深いことに、ペテロのことばは、良い敬虔な夫を持つ妻だけでなく、神を知らない夫や、神のみことばに従っていない夫を持つ妻にも向けられています。どのような夫であれ、妻は服従しなさいと勧めます。なぜでしょう。それは、私たちの生き方が言葉以上に力強い証しだからです。未信者に伝道する方法はいくらでもあります。しかし、本当に伝わる証しは方法論でも実践論でもありません。あなた自身の人柄です。私たちの人生がイエス・キリストの証しなのです。パウロは言いました。

2コリント 3:2 私たちの推薦状はあなたがたです。それは私たちの心にしるされていて、すべての人に知られ、また読まれているのです。

人は私たちのことを読んでいます。日本では、9割以上の人々がノンクリスチャンです。つまり、神のみことばについて知っている人はほとんどいません。しかし、人々は私たちを見て、私たちの中に、自分が求めているものを見出すでしょう。あなたの人生の中に、愛、平安、喜びを見るのです。苦しみや試練、逆境に見舞われた時でもです。苦しみや試練、逆境の中でも希望を持ち続ける私たちの姿を人は見るでしょう。私たちが持つ希望は、この国で最大の証です。日本には、希望を持ってない人が多いからです。統計がそのことを物語ります。世界保健機構（WHO）によると、日本はハンガリーやリトアニアと並んで、過去60年間における自殺者数のもっとも多い国です。大阪でも月に何度か「人身事故」で電車が止まったり遅れたりしますが、この統計を確証しているようです。自殺は、完全に希望を失った結果と言えるでしょう。希望をまったく失ってしまったら、何を望めばよいのでしょうか。しかし、私たちクリスチャンには希望があります。私たちには、すべての希望の神がおられます。

ローマ 15:13 どうか、望みの神が、あなたがたを信仰によるすべての喜びと平和をもって満たし、聖霊の力によって望みにあふれさせてくださいますように。

私たちにはこのような希望があります。これを周囲に見てもらえば、その人たちも同じ希望を求めましょう。私たちの人生は証です。そして、それは家庭内から始まります。言うのは簡単です。だから、私たちのふるまいのほうに証しとして有効なのです。

1ペテロ 3:1 同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。たとい、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものとされるようになるためです。

こういうわけで、神のみことばに従わない未信者の夫でも、愛情深い敬虔な妻のふるまいをとおして神のもとに来る可能性があるのです。

1ペテロ 3:2 それは、あなたがたの、神を恐れかしくむ清い生き方を彼らが見るからです。

人々が、あなたのうちに清さを見、あなたが神を恐れていることを見るなら、それは大きな証しとなります。

1ペテロ 3:3-4 あなたがたは、髪を編んだり、金の飾りをつけたり、着物を着飾るような外面的なものではなく、**4**むしろ、柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人がらを飾りにしなさい。これこそ、神の御前に価値あるものです。

人は、外見に目を奪われがちですが、外見はいずれ衰えます。見てください。私だって昔から禿げていたわけではありません！しかし、神は心を見ておられます。神にとって本当の美しさとは、内面の美です。柔和で穏やかな霊です。「これこそ、神の御前に価値あるものです。」

1ペテロ 3:5-6 むかし神に望みを置いた敬虔な婦人たちも、このように自分を飾って、夫に従ったのです。**6**たとえばサラも、アブラハムを主と呼んで彼に従いました。あなたがたも、どんなことをも恐れないで善を行えば、サラの子となるのです。

敬虔な婦人は、神に望みを置くことで自分を飾りました。そして、妻たちは、サラのように、夫に従うことによってそれを証しました。夫が家長であると聖書が教えていることは、明らかです。しかし興味深いことに、このみことばが関連付けられている創世記18章の内容は次のようなものです。主と二人の御使いが当時100歳くらいだったアブラハムのところへやってきました。そして、当時90歳くらいだった妻のサラとの間に子どもが生まれると言いました。

創世記 18:12 それでサラは心の中で笑ってこう言った。「老いぼれてしまったこの私に、何の楽しみがあるろう。それに主人も年寄りで。」

このことを聞いたとき、サラは信じないで笑いましたが、明らかに夫に従ったのです。イサク（「笑う」という意味）を生んだのですから。なぜここが重要なのでしょうか。それは、おかし、意味がわからないと思ったとしても、女性が夫に従うという点で、神を信頼するように召されているからです。そうすることでどのような最悪の事態が考えられるでしょうか。夫が失敗して、謙虚さを学ばなければならない状況になる可能性もあります。しかし、妻が夫の意見に**100%**賛成でないときも自分を支えてくれると思える夫はどれほど心強いでしょう。一方、妻が夫に従うのを拒んだら、最悪の事態はどのようなものなのでしょうか。2012年の日本の離婚率は約35%でした。これは、日本で結婚したカップルの3組に1組が離婚するということです。この統計には、いわゆる家庭内離婚や別居は含まれていません。これは、とても悲しいことです。妻が服従しないことが離婚の主な原因だとは断定できません。ただ、皆さんもご存じだと思いますが、人は気ままなものです。自分の思うように物事を進めたいと思います。そして遂には、主の御前に出てこれまでの人生について申し開きをしなければならない日が誰にもやってきます。そのとき、神のみことばを信頼して従わなかったことを誰のせいにもすることはできません。神は、この聖書の教えについて、女性にただ神を信頼することを望まれます。つまり、結婚生活がうまくいかなかったとしても、主を信頼して従ったのなら何の悔いもなく確信をもって主の御前に出ることができるとです。それによって失うものがあるとすれば何でしょう。逆に、得られるものは何でしょう。**1節**にはこうありました。

1ペテロ 3:1 同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。たとい、みことばに従わない**夫**であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものとなされるようになる**ため**です。

無言のふるまいです。何を言うかではなく、何をするかということです。ここまで聞いて、「よくぞ言ってくれた！」と思っている男性がいるかもしれませんが、次は男性が言われる番です。**7節**を見てみましょう。

1ペテロ 3:7 同じように、夫たちよ。妻が女性であって、自分よりも弱い器だということをわきまえて妻とともに生活し、いのちの恵みをともに受け継ぐ者として尊敬しなさい。それは、あなたがたの祈りが妨げられないためです。

夫たちは、わきまえ、つまり理解と思いやりをもって妻とともに生活しなさいとあります。男性が女性を完全に理解するのは不可能だと思いますが（笑）結婚生活の中で、夫は理解しようとする努力を惜しんではいけません。それは、妻に敬意を示すことです。パウロは言いました。

エペソ 5:25 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。

パウロは、「夫たちよ。妻に親切にしなさい」とか「優しくしなさい」とは言っていません。もちろん、そのようなことは結婚生活をよりよいものにするでしょうが、パウロがここで言っているのはそういうことではありません。妻のために自分の人生を投げ打つということです。キリストが私たちのためにご自身のいのちをささげてくださいましたようにです。言い換えれば、「夫たちよ、自分に死になさい」ということです。考えてみてください。キリストがまず私たちを愛し、ご自身の命をささげることでその愛を証明してくださいさなかったら、私たちはキリストに従うでしょうか。もちろん従わないでしょう。キリストが自ら私たちのために死んでくださらなかったら、私たちが喜んでキリストに従うことにはないでしょう。キリストが私たちのためにしんでくださったからこそ、私たちはこのお方に喜んで従うのです。ですから、妻に従ってほしいと思うなら、夫がまず死ななければなりません。それが聖書の教える順序です。どのようにして死ぬのでしょうか。もちろん、文字通り死ぬということではありません。妻に仕え、妻の好みを尊重し、キリストが私たちに与えてくださったような無条件で自己犠牲の愛をもって妻を愛することで、自分を捨てるということです。信仰に関わらない日常のことについては、自分に死になさい。妻が好きなようにさせてあげましょう。家具を選んだり、夫のひげの長さを決めたり、信仰生活を左右することでないなら、妻の思うようにさせてあげましょう。けれども、信仰生活については、夫が家庭の霊的リーダーとしてしっかりと神に従う必要があります。では改めて、7節の最後にあるペテロの言葉を見てみましょう。

1ペテロ 3:7 同じように、夫たちよ。妻が女性であって、自分よりも弱い器だということをわきまえて妻とともに生活し、いのちの恵みをともに受け継ぐ者として尊敬しなさい。それは、**あなたがたの祈りが妨げられないためです。**

敬虔な夫として生活しないと、信仰生活に悪影響が出ます。祈りが妨げられるのです。祈りを妨げるものは何でしょう。妻に対する愛のやや思いやり、敬意の欠如です。突き詰めれば、あなたの妻との関係は、あなたと神との関係に直結しています。簡単に言うと、神を喜ばせたければ、妻を喜ばせなさい！「妻が幸せなら、人生も幸せ」というわけです。

1ペテロ 3:8 最後に申します。あなたがたはみな、心を一つにし、同情し合い、兄弟愛を示し、あわれみ深く、謙遜でありなさい。

ここで、互いに愛し合うことがふたたび強調されています。互いへの愛がもっとも試されるのは、不当な扱いを受けたときです。不当な扱いを受けて傷つけられたら、私たちはどうすればよいのでしょうか。ペテロは続けます。

1ペテロ 3:9 悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。

先週のメッセージで、私たちはこの世という石切り場で打たれたり削られたりしながら完成されつつある生きて石であると話しました。ときには、神経を逆なでするような人やとげとげしい人と出会うことがあります。そのようなときにこそ、私たちは復讐するのではなく、むしろ祝福するようにと召されています。どんな口論や争いでも、クリスチャンの間ではそれを長引かせてはいけません。兄弟姉妹の誰かが失言や失態をして教会に注意されるようなことがあっても、周りの者はまず愛をもって謙虚に対応しなければなりません。しかし、敵意のある言動に対して私たちはとっさに次のような反応をしてしまいがちです。
驚いて怖がる・・・ショックを受けて、どうしてよいかわからず途方に暮れる。
逃げる・・・とにかくその人を避けようとする。

争う・・・やり返す。

これは人類の歴史上、何度も繰り返されてきたことです。ある集団が他の集団にひどい仕打ちをすると、被害を受けた集団が一生をかけて報復するのです。敵を愛せよと言われるイエスの愛のみが、恨みと復讐の悪循環を断ち切ることを可能にします。私たちクリスチャンは、愛しなさいと命じられています。敵をも愛しなさいと。イエスはこう言われました。

マタイ 5:44 しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。

ここでイエスは、自分を愛してくれる人だけを愛しても何も褒められたことではないと言われます。罪深い異教徒でも同じようにするとおっしゃいました。

マタイ 5:46-47 自分を愛してくれる者を愛したからといって、何の報いが受けられるでしょう。取税人でも、同じことをしているではありませんか。**47** また、自分の兄弟にだけあいさつしたからといって、どれだけまさったことをしたのでしょうか。異邦人でも同じことをするではありませんか。

愛が試されるのは、敵にもあわれみを示せるかどうかです。これを実践することで、私たちには何の得があるのでしょうか。まず、復讐心や恨みとは関係のない人生を送れることです。ペテロは言います。

1ペテロ 3:9 悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。**あ**
あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。

相手のためを思って赦す、またはイエスの命令だから赦すということができないなら、自分のために赦しましょう。ペテロは、詩篇32篇を引用し、10-12節の要点を明白にします。

1ペテロ 3:10-12 「いのちを愛し、幸いな日々を過ごしたいと思う者は、舌を押さえて悪を言わず、くちびるを閉ざして偽りを語らず、**11** 悪から遠ざかって善を行い、平和を求めてこれを追い求めよ。**12** 主の目は義人の上に注がれ、主の耳は彼らの祈りに傾けられる。しかし主の顔は、悪を行う者に立ち向かう。」

これは、素晴らしい約束であると同時に、警告でもあります。神が遍在であられることを覚えておいてください。いつでもどこにでもおられるという意味です。また、私たちの思いも知っておられます。神から逃げることはできません。

1ペテロ 3:13 もし、あなたがたが善に熱心であるなら、だれがあなたがたに害を加えるでしょう。

あなたがたに害を加えるのは誰でしょう。神ではありません。神の子どもたちでもないはずで、（私たちは罪人なので、そうしてしまうこともあります。）あなたの元気を奪って、破滅させたいと願っている敵は他にいます。イエス・キリストのために精力的に生きていこうとすると、悪魔やこの世、そしてあなたの肉があなたの敵となります。そして、あなたをくじけさせ、イエス・キリストの証も台無しにしてしまおうと攻撃してきます。

1ペテロ 3:14 いや、たとい義のために苦しむことがあるにしても、それは幸いなことです。彼らの脅かしを恐れたり、それによって心を動揺させたりしてはいけません。**15** むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしておきなさい。

私たちはこのように勧められています。「だれにでもいつでも弁明できる用意をしていなさい。」この弁明ということばは、ギリシャ語の「アポロジア」という単語が使われています。使徒の働きの中に記されている使徒パウロを見ることで、この単語の意味をもう少し知ることができます。彼は言いました。

使徒の働き 22:1 「兄弟たち、父たちよ。いま私が皆さんにしようとする弁明を聞いてください。」

ここでも同じギリシャ語の「アポロジア」が使われています。パウロの弁明とは何でしょう。彼は続けて自分自身の証しを述べました。パウロはクリスチャンを迫害する者でした。また、クリスチャン初の殉教者ステパノの死を是認した人です。その彼が、クリスチャンになったのです。

神のみことばに対して、反論する人はたくさんいます。しかし、神のみことばが私たちにしてくれたことについて反論できる人はいません。人の人生がみことばによって変えられたことに反論はできません。ですから、もし聞かれたなら、キリストがあなたにしてくださったことを率直に話しましょう。

1ペテロ 3:16 ただし、優しく、慎み恐れて、また、正しい良心をもって弁明しなさい。そうすれば、キリストにあるあなたがたの正しい生き方をののしる人たちが、あなたがたをそしったことで恥じ入るでしょう。

悪に対して善を返すなら、その人たちが持っていた私たちについての反感が間違っていることを証明できます。こうして、神に従う私たちの生き方を攻撃した人はそのことを恥じるでしょう。

1ペテロ 3:17 もし、神のみこころなら、善を行って苦しみを受けるのが、悪を行って苦しみを受けるよりよいのです。

誰も苦しみたくはありません。けれども、苦しまなければならないなら、悪いことをした結果ではなく、良いことをした結果であることを願います。クリスチャンも、失礼だったり、不快な態度を取ったり、愚かな選択をしたりして、苦しむことがあります。けれども、そのような苦しみはクリスチャンであることが原因の苦しみではありません。むしろ、自分自身の悪い行いの結果であり、イエス・キリストとキリスト教全体に対する印象を悪くしてしまうものです。パウロはこのことをはっきり語ります。

ガラテヤ 6:7-8 思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、その刈り取りもすることになります。**8** 自分の肉のために蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、御霊のために蒔く者は、御霊から永遠のいのちを刈り取るのです。

つまり、因果応報ということです。間違っただけではありません。私たちはまいた種を刈り取るのです。その結果は他でもない自分自身の責任です。ですから、もし苦しむなら、悪いことをした結果ではなく、良いことをした結果の苦しみであるようにしましょう。

1ペテロ 3:18-20 キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなったのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、私たちが神のみもとに導くためでした。**19** その霊において、キリストは捕らわれの霊たちのところに行って、みことばを語られたのです。**20** 昔、ノアの時代に、箱舟が造られていた間、神が忍耐して待っておられたときに、従わなかった霊たちのことです。わずか八人の人々が、この箱舟の中で、水を通して救われたのです。

キリストは正しいお方でありながら、悪い人々のために苦しみました。悪い人々とは、人間すべてのことです。主の苦しみをおして、私たちは神のもとへ導かれました。**20**節で、ペテロはノアとその家族が水をおして救われたと言います。これは、洗礼を指し示しています。

1ペテロ3:21 そのことは、今あなたがたを救うバプテスマをあらかじめ示した型なのです。バプテスマは肉体の汚れを取り除くものではなく、正しい良心の神への誓いであり、イエス・キリストの復活によるものです。**22** キリストは天に上り、御使いたち、および、もろもろの権威と権力を従えて、神の右の座におられます。

イエスは、すべての権威をもって神の右の座におられます。イエスがおっしゃったとおりです。

マタイ 28:18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。

神の右の座で、主は何をしておられるのでしょうか。

ローマ 8:34 罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしていただくのです。

神の右の座で、イエスは何をしておられるのでしょうか。主は、私たちのためにとりなして下さっています。私たちを応援しておられるのです。私たちが強められるようにと祈っておられます。あきらめないで戦い続けるようにと祈っておられます。

ですから、最後に使徒パウロの励ましを読んで終わりましょう。

コロサイ 3:1-2 こういうわけで、もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。**2** あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。

祈りましょう。